

講義内容

教育哲学研究 I

Pedagogical Philosophy I 2単位

情報とメディアの時代といわれる現代の人間形成において、「経験」とはいかなる意味を有するのか。この問題を、主にドイツの教育人間学の方法を紹介しながら考えていきたい。「経験」には、①他者との直接の関わり合いやモノの操作などの「身体的経験」(五感による経験)と、②記号、画像などの情報を媒介にして新しい世界を知る「バーチャルな経験」(視聴覚中心の経験)とがある。この二つの「経験」を比較した場合、現代は、「身体的経験」に比べて「バーチャルな経験」の比率が極大化した時代といえる。「身体的経験」と「バーチャルな経験」の質の違いを具体的に比較検証しながら、人間形成や学校教育において「経験」が有する根源的意味を考察する。

教育哲学研究 II

Pedagogical Philosophy II 2単位

西洋と日本の近代教育思想の成り立ちや構造を知る事によって、教育的なものの方の特質を知る。講義は以下の三領域からなる。(1) 近代教育思想の成立と構造 (2) 近代日本の教育学と教育思想 (3) お雇い外国人の見た近代日本の文化と教育

西洋教育史研究 I

History of European Education I 2単位

ドイツの教育思想史とりわけ、シュタイナーを中心としながら、田園教育舎系の教育思想と比較検討する。

西洋教育史研究 II

History of European Education II 2単位

本講義では、ドイツの教育学者であり、玉川大学の名誉教授でもあったオットー・F. ボルノウの教育思想を見ていくことにする。本年度は“Anthropologische Paedagogik”(Tamagawa Univ. Press) の4. Die paedagogische Atmosphaere を一緒に読みながら、幼児の庇護性、教育者の徳などについて考え、討論していきたい。

日本教育史研究 I

History of Japanese Education I 2単位

明治初期の啓蒙主義教育思想を検討します。

日本教育史研究 II

History of Japanese Education II 2単位

明治初期の啓蒙主義教育思想を検討します。

教育心理学研究 I

Educational Psychology I 2単位

現代の発達心理学の代表的な発達観を整理し、それぞれの立場を支える実証的根拠となっている研究を検討し、そこでの教育の意義と役割を考察する。さらに、教授・学習に関するいくつかの代表的なアプローチをとりあげ、その人間観、教育の目標、教授—学習過程のプログラムまたは事例を分析・検討する。

I

学修にあたって

II

事務手続き

III

教育課程表および
講義内容
教育学研究科

IV

付録

教育心理学研究Ⅱ

Educational Psychology II 2単位

個を配慮して自律的な学びを支援するという観点から、実証的な研究を踏まえて考察する。

教育方法・技術研究Ⅰ

Method and Technology of Education I 2単位

教育方法・技術研究Ⅱ

Method and Technology of Education II 2単位

このコースでは、教育方法研究の方法論をⅠ、Ⅱを通して学ぶためのものである。教育方法は、単に子どもを前にした教え方の技能ではなく、教科内容に関する構造的な理解、学習者についての知識、そして、授業のデザインの技術からなるものである。これは、子どもにそって教える、という「メトード」を具体化するものにほかならない。本コースでは、認知的なアプローチを中心として、教材研究、子どものつまづき、ディスレクシアの理解などを扱う。

比較教育学研究Ⅰ

Comparative Education I 2単位

諸外国との比較を通して、日本の教育の特色を理解する。諸外国の教育の歴史・現状を理解し、各国の特色を理解することにより、日本の教育の特色を説明することができる。主にイギリス、ドイツ、アメリカを取り扱う。

比較教育学研究Ⅱ

Comparative Education II 2単位

1980年代以降の教育改革を中心に、諸外国の教育政策の特性を検討する。諸外国の教育政策における比較分析を行い、各国の特色を理解する。

幼児教育思想研究

Philosophies of Nursery Education 2単位

本講義では、コメニウス、ルソー、ペスタロッチー、オウエン、フレーベル、モンテッソーリ等の生涯、子ども観、幼児教育観を見ていくことによって、西洋近代幼児教育思想の流れを概観し、しかる後、特にフレーベルの幼児教育思想がわが国にどのように受容され、日本の幼児教育にどのような影響を与えたのかを見ていく。単なる講義だけではなく、受講者による発表、また討論も交えて進めていくことにしたい。

幼児教育指導論

Instructional Theory for Early Childhood Education 2単位

1. 指導の前提となる幼児理解と、その方法について学ぶ。
2. 幼児の成長・発達を「内的世界の広がり」という視点より考察する。
3. 実際の幼児観察を通して、幼児の指導とはどのようなものであるのか理解を深める。(予定)

幼児音楽研究

Music for Early Childhood 2単位

表現領域の一分野である音楽をとりあげる。乳幼児期に重要な意味をもつと言われる表現活動だが、そのなかで音楽の占める立場は、時代を追って変化してきている。これから音楽がどのような形で関わっていくべきなのかを探る。

幼児造形研究

Crafts for Early Childhood 2単位

今日、メディア・アートはもとより、アートやデザインが社会における新たな役割を担おうとしている。この変化に伴い造形による教育も新たな役割や手法が求められている。また、デジタル技術の発展に伴う生活環境の変化は、デジタルを操

作する人間の基盤的能力としてのアナログ感覚の重要性をますます高めている。本講では、造形による教育の視座から幼児の生活環境の変化を踏まえ、アナログ感覚の基盤を形成する体験や経験化について考察すると共に、造形教材の開発、教育活動の設計、教材の運用などについて研究する。

児童福祉研究

Child Welfare

2単位

児童福祉の理念や制度は、家庭教育、学校教育と極めて密接な関連性をもっている。また、近年のわが国の児童福祉制度は、少子社会への変化、子どもを取り巻く環境の変化等に伴い、大きな変革期にある。履修者のこれまでの児童福祉および関連領域・分野の学修内容を踏まえて、前半はわが国の児童福祉制度を概観し、後半は履修者の関心のあるテーマを中心に展開する予定。

精神保健研究

Study on Mental Health

2単位

豊かになった現代社会において、心の健康状態は必ずしも十分に保障されているとは言い難い。また、人間の心の状態は体の健康にも大きく影響を及ぼし、特に子どもにおいては、心身相関が顕著である。本講では、子どもの精神保健に焦点をあて、家庭・保育現場・学校・社会などにおけるさまざまな心理的・精神医学的問題をとりあげて考察することとした。

小学校授業研究

Curriculum and Instruction in Elementary Schools

2単位

授業における学習目標は、一般的に知識や技能の獲得、意欲や態度の形成などである。中でも、知識の獲得は、ほとんどの教科の主要な学習内容になっている。ところが、知識の学習は詰め込み学習ととらえられ、授業において知識の学習が軽視される一方で、考える力や学習意欲、態度の形

成が学習目標として取り上げられる傾向がある。しかし、知識と技能、知識と思考、知識と意欲・態度は相互に関連した関係にあり、一方だけの獲得は考えにくい。そこで、本授業では、教科学習の基本にある知識学習についての基本的な考え方や、知識学習を支援する授業について学ぶ。知識の獲得の場として、自然をフィールドとして知識を得る理科と、文学などの文章から知識を得る国語を考えている。

小学校教育課程研究

Curriculum Studies for Elementary School

2単位

- ①教育改革と学習指導要領の変遷を講義する
- ②教育課程の基礎知識を教授し、教育課程編成の事例分析などを行う
- ③新学習指導要領への移行期間の課題について、実践的に考察をする

情報教育研究

ICT in Education

2単位

情報教育とは、IT(Information Technology)を利活用した教育、学習である。

ITの普及に伴い、さまざまな教授システムや学習システムが開発され、ITを利活用した実践が行われてきた。それらの多くは学習理論の影響を受けている。

本講義では、教授システムや学習システム、およびIT利活用の変遷を概観し、それらの背景にある学習理論と関連づけてITが果たす役割を理解することを目的とする。

なお、本講義では、受講者による発表・討論を中心に行うので、積極的な参加を望む。

カウンセリング研究

Counseling Theory and Practice for Children

2単位

「カウンセリング」という言葉は一般化しているが、その一方で、人それぞれのイメージがあり、

過剰な期待や誤解も多く生じている。この授業では、カウンセリング、広義の心理療法の基礎を学び自己理解・他者理解を深める。さらに教育場面の事例検討を行う。

特別支援教育研究

Special Needs Education 2単位

現在の学校教育の大きな課題の一つである特別支援教育について、その対象となる高機能広汎性発達障害児やLD児、ADHD児等を含めた指導の難しい児童生徒の理解ならびに指導の方法、さらにはそうした児童生徒の在籍する学級、学校の運営について、主として自閉症の障害特性などから考えていきたい。

授業技術の研究と実践

Study and Practice of Instructional Method 2単位

本授業では、教師の授業力の本質を解明し、授業力を向上させるための努力の方向を明らかにして、教室での授業が大きく変化することを目的としている。

すぐれた医師は、すぐれた医療技術と患者への適切な対応力を身に付けている。すぐれた教師はすぐれた教育技術と子どもへの適切な対応力を身に付けている。講義、演習、授業の実演等によって学んでいく。

学校教育研究

School Issues : Reality and Reform 2単位

学士課程教育構築と並行して、初等教育と中等教育への提言も多く出ている。そうした社会からの提案を受けて、戦後中断することなく継続されてきた学校制度(6-3-3制)も、制度改革が実施されるようになった。例えば、小中一貫教育(4-3-2制)や公立中学校と県立高等学校とを統合しての中高一貫教育制も実施されてきている。今後、「学士課程教育の構築」答申を受けて大学が大きく変化し

ていくなかで、それがどういった変化を初等教育と中等教育へ及ぼすのであろうかを考察していく。

全人教育研究

Study on Zenjin Education 2単位

全人教育とは何なのかを、西洋と日本の教育史の流れの中で見ていくことにしたい。しかる後、本学の創立者である小原國芳の全人教育の特徴はどこにあるのかを、具体的に探っていくことにしたい。

経営基礎論

Fundamentals of School Management 2単位

企業組織において継続的・計画的にその事業を遂行し、経済的活動を運営するために、様々な方法論が提案されている。これらの方法論の基本的な考え方を教育機関に適用することは可能であり、教育機関における経営論の基礎を講義と議論によって理解する。

脳科学と教育

Brain Science and Education 2単位

教育は高度に心理的な技能である。しかし一方で脳科学の視点からの情動的解釈では、脳における高度の学習過程を誘導する、高度のインタラクションとも言える。心理的な世界と脳の世界のあいだにはまだ溝があるが、最近の脳関連の諸科学はそれを埋める大きな進歩を遂げている。その成果は、多様な学習の場面での特性と、その障害により発生する現象の深い理解につながりつつある。本講義は、教育と学習にかかわる最新の脳科学の知見を紹介し、実際の教育現場における方法につなぐ努力について議論する。

脳科学と社会

Brain Science and Society 2単位

ここ数十年で脳科学は目覚ましい発展を遂げ、

ヒトの脳のはたらきを直接に研究することができるようになってきた。その結果、脳科学は、生物としてのヒトの行動だけでなく、社会に生きる人間の心をも解明しようとしている。たとえば私たちの意思決定は、他者を意識することにより、大きく左右される。本講義は、このような社会的場面特有の脳のはたらきに注目し、非社会的場面における脳のはたらきとどう異なり、我々の日常生活でどのように現れているのかという点について理解を深める。

教育学特殊研究 A

Advanced Topics in Education A 2単位

道徳教育の研究。日本の道徳教育の歴史、現状、課題について考察し、これからの道徳教育の在り方について考察しあいたい。その考察の手がかりとして、稲富栄次郎博士（1897-1975）の道徳教育論の文献を読みあう。

博士には、道徳教育に関する三部作『道徳教育論』『人間形成と道徳教育』『日本の道徳教育』がある。これらはいずれも、深い学理に基づいて実際のあり方まで示す貴重かつ重要な論稿である。講義ではこれらの中からさらに多くの示唆を与え得る論稿を読みあい、今後の日本の道徳教育の理論と実践を追究したい。

教育学特殊研究 B

Advanced Topics in Education B 2単位

臨床教育学という名称が公的に認知されたのは昭和63年、京都大学大学院研究科に臨床教育学の講座が設置されたのが最初であるが、平成6年には武庫川女子大学大学院にも「臨床教育学研究科」が新設され、その後多くの大学で臨床教育学ないしこれに類似した名称を冠する大学院研究科、学科も増え、大きな期待と注目を集めつつある。しかし、長い伝統をもつ臨床心理学と比べて、臨床教育学は文字通り萌芽的段階にあり、その体系的理論や学的人格は未だ確立していない。また、日

本感性教育学会が設置されたが、感性をどう捉え、感性教育の目的、内容、評価をどう具体化するかについての体系的理論構築の試みは始まったばかりである。また、「脳科学と教育」に関する本格的な研究が始まり、幼児教育、小学校教育の具体的実践に脳科学の最新の研究成果を活かす教育現場に根差した取り組みも埼玉県で行われている。筑波大学大学院には感性認知脳科学専攻が新設され、「こころを解明する感性科学」の研究が進められ、「感性とは何か」「感性の働き」「感性の機構」などが明らかにされつつある。そこで、本特別研究では「臨床教育学と脳科学・感性教育」をテーマに、究明していきたい。

教育学特殊研究 C

Advanced Topics in Education C 2単位

発達障害の特性を最新の脳科学、ICF、ストレスケアの視点から理解を深める。当事者や親、実践家からすぐに活用可能な効果的支援法を学ぶ。

教育学特別演習 I

Seminar for Master Degree I 2単位

教育学特別演習 II

Seminar for Master Degree II 2単位

教育学特別演習 III

Seminar for Master Degree III 2単位

教育学演習は全体として、修士論文を書くための基礎となる方法論を学び、また、それに関連する文献を検討することによって、論文を書く力をつけることを目的としている。そのために、受講者は修論指導担当の演習を選択し、各学期の当初に担当とともにコースの進め方を打ち合わせ、研究計画にもとづきながら文献などを選択する。